



2026 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 ソースネクスト株式会社
代 表 者 代表取締役社長 兼 CEO 松田 憲幸
(コード番号 4344 東証プライム)
問 合 せ 先 取 締 役 兼 C F O 青山 文彦
電 話 番 号 0 3 - 5 7 9 7 - 7 1 6 5

2026 年 12 月期第3四半期連結業績速報値並びに 営業外費用及び特別損失の計上に関するお知らせ

ソースネクスト株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO:松田 憲幸。以下、当社)は、2026 年 12 月期第3四半期の連結業績につきまして、11 月 13 日(金)の正式発表に先立ち、現時点までの集計結果に基づく概数がまとまりましたので、速報値として下記の通りお知らせいたします。また、2026 年 12 月期第3四半期連結会計期間において、営業外費用及び特別損失を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1.連結業績速報値

2026 年 12 月期第3四半期連結累計期間の業績速報値(2026 年1月1日～2026 年9月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
2026 年 12 月期 第3四半期累計(速報値)	8,476	△601	△847	△720
(ご参考)調整後前年同期 (2025 年1月1日～9月 30 日) (実績)	8,722	△2,322	△2,905	△2,741
調整後増減率(%)	△2.8	—	—	—

(注)当社は、2025 年 12 月期より、決算期を3月 31 日から 12 月 31 日へ変更しました。これに伴い、前第3四半期連結累計期間と当第3四半期連結累計期間で対象期間が異なるため、参考情報として調整後前年同期(2025 年1月1日～2025 年9月 30 日)の実績を記載しております。

2026 年 12 月期第3四半期連結会計期間の業績速報値(2026 年7月1日～2026 年9月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
2026 年 12 月期 第3四半期(速報値)	3,111	204	20	55
(ご参考)調整後前年同期 (2025 年7月1日～9月 30 日) (実績)	3,206	△307	△286	△120
調整後増減率(%)	△3.0	—	—	—

(注)当社は、2025 年 12 月期より、決算期を3月 31 日から 12 月 31 日へ変更しました。これに伴い、前第3四半期連結会計期間と当第3四半期連結会計期間で対象期間が異なるため、参考情報として調整後前年同期(2025 年7月1日～2025 年9月 30 日)の実績を記載しております。

上記の業績速報値につきましては、現時点までの集計結果に基づく合理的な判断による見込みであり、実際の業績は速報値と異なる可能性があります。

2.調整後前年同期実績と当期速報値との差異の要因

・ 第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は 84 億 76 百万円(調整後前年同期比 2.8%減)、営業損失は6億1百万円(調整後前年同期営業損失 23 億 22 百万円)となり、営業損失が縮小いたしました。損益面の改善に関しては、前期は「ポケットーク」旧製品の端末について評価損を計上しましたが、当期は同様の評価損が発生しなかったことで売上原価が改善したことや、連結子会社であるポケットーク株式会社(本社:東京都中央区、取締役 代表執行役社長 兼 CEO:松田 憲幸。以下、ポケットーク社)の海外事業において収益性を重視した事業運営体制への転換を進めたことで収支が大幅に改善したことが寄与しております。ポケットーク社の海外事業につきましては、2026 年 12 月期第3四半期(2026 年7月～9月)の営業利益が、前年同期と比べて米国法人で1億 51 百万円、欧州法人で 56 百万円、両法人合計で2億7百万円改善いたしました。加えて、米国法人の 2026 年9月度の営業利益率は過去最高となる 31.8%、欧州法人では同月の営業利益率が 26.7%と高い利益率を確保しております。

また、経常損失は8億 47 百万円(調整後前年同期経常損失 29 億5百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は7億 20 百万円(調整後前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失 27 億 41 百万円)となる見込みであり、損失幅は縮小し利益の改善が進捗しております。

・ 第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間(7月～9月)においては、売上高は 31 億 11 百万円(調整後前年同期比 3.0%減)、営業利益は2億4百万円(調整後前年同期営業損失3億7百万円)と、四半期の連結業績において20 四半期ぶりに営業利益が黒字化いたしました。これは、上記の通りポケットーク社の海外事業において収支が大幅に改善したことに加え、AI 同時通訳「ポケットーク - Sentio」シリーズの販売が、日本及び海外市場で拡大したことや同シリーズ製品の利益率が向上したことなどによりポケットーク社の連結業績が改善していることによるものです。結果として、2026 年9月度には、ポケットーク社の連結業績において単月の営業利益が黒字化いたしました。また、当社においては、主力ソフトである「いきなり PDF」の受注拡大による売上高の増加や継続的な固定費の見直しなども、利益の押し上げにつながっております。なお、持分法による投資損失及び為替差損を計上したことにより、経常利益は 20 百万円(調整後前年同期経常損失2億 86 百万円)となり、営業利益からは減少したものの黒字を確保いたしました。親会社株主に帰属する四半期純利益は 55 百万円(調整後前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失1億 20 百万円)となる見込みです。

3.営業外費用(持分法による投資損失)及び特別損失(契約解除損)の計上

(1)営業外費用(持分法による投資損失)の計上について

2026 年 12 月期第3四半期連結会計期間(2026 年7月1日～2026 年9月 30 日)において、持分法による投資損失 75 百万円を計上いたしました。これは、当社グループが保有する持分法適用会社において、損失が発生したことに起因するものであります。

(2)特別損失(契約解除損)の計上について

同期間において、契約解除損 43 百万円を計上いたしました。これは、ポケットーク社における製品開発計画の見直しに起因するものであります。

(3)業績への影響

上記の営業外費用及び特別損失は、「1.連結業績速報値」に記載の 2026 年 12 月期第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間の業績速報値に反映しております。

以上